

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成26年4～6月の運転・利用実績

SPring-8は4月1日から4月25日までセベラルバンチ運転で第1サイクルの運転を行い、5月7日から6月6日までセベラルバンチ運転で第2サイクルの運転を実施した。第1～2サイクルでは軌道変動によるビームアポート等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第1サイクルは約0.3%、第2サイクルは約0.2%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第1サイクルは合計154件、利用研究者は682名で、専用施設利用研究の実験数は合計139件、利用研究者は551名であった。第2サイクルは合計286件、利用研究者は1,382名で、専用施設利用研究の実験数は合計226件、利用研究者は914名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第1サイクル (4/1 (火)～4/25 (金))

第2サイクル (5/7 (水)～6/6 (金))

(2) 運転時間の内訳

第1サイクル

運転時間総計 約570時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約211時間

②放射光利用運転時間 約358時間

③故障等による down time 約1時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム = ② + ③)

に対する down time の割合 約0.3%

第2サイクル

運転時間総計 約720時間

①装置の調整およびマシンスタディ等

約120時間

②放射光利用運転時間 約599時間

③故障等による down time 約1時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム = ② + ③)

に対する down time の割合 約0.2%

(3) 運転スペック等

第1サイクル (セベラルバンチ運転)

・ 1/7-filling + 5 bunches

・ 11/29-filling + 1 bunch

第2サイクル (セベラルバンチ運転)

・ 203 bunches

・ 1/7-filling + 5 bunches

・ 11 bunch train × 29

・ 入射は電流値優先モード (2～3分毎 (マルチバンチ時) もしくは20～40秒毎 (セベラルバンチ時)) の Top-Up モードで実施。

・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

・ 軌道変動によるビームアポート

・ SR RF Dst. サークュレータアークによるアポート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第1サイクル (4/8 (火)～4/23 (水))

第2サイクル (5/9 (金)～6/6 (金))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 19本

理研ビームライン 9本

加速器診断ビームライン 2本

第1サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数	154件
共同利用研究者数	682名
専用施設利用研究実験数	139件
専用施設利用研究者数	551名

第2サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数	286件
共同利用研究者数	1,382名
専用施設利用研究実験数	226件
専用施設利用研究者数	914名

◎平成26年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月9日から7月4日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を行い、停止期間をはさみ、7月7日から7月25日までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施している。第3～4サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

7月26日から9月23日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。